

和田豊治について



和田豊治(1861~1924)

和田豊治の生涯

当時、倒産の危機にあり、誰もが見放しかけていた富士紡績に入社し、見事立て直し、後に「第二世渋沢(栄一)」と謳われ、交友の広さ、面倒見の良さから「友を持つなら和田を持って」とまで言われるようになった人物。ここでは、そんな彼とはどのような人物であったのかを紹介していきたいと思います。

中津時代



和田公園内の誕生地碑



後に本籍を北門通りに移す
(和田公園内の和田豊治翁頌徳碑)



書生時代を過ぎた旧村上田長宅

1870年、豊治は大久保逕造の家塾に入り四書五経を学ぶようになる。そして、1876年15歳のときに、中津中学校に入学する。在学中は、医者を目指していたこともあり、中津の医者村上田長のもとで書生として過ごす。1879年になると、和田豊治は中学校を卒業し、東京か大阪へ遊学を望むが、貧乏士族であった彼の家では到底及ぶものではなかった。

また、同年の8月に父薫六が死去し、家督を継いだ事で、上京を一旦断念して村上田長の下で書生を続けていた。しかし、翌年の1880年には祖母も死去したことで遊学を決心し、邸宅の一部を売り払い、その資金にあてた。これ

を知った村上田長の取り計らいにより、当時京都で中外電報という日刊新聞を発行していた濱岡光哲という人物から和田が東京から通信を送るという名目で毎月 10 円の資金を受けられるようになった。

上京と渡米

上京を果たした和田は 1881 年に東京大学別科(現在の東大医学部)を受験するが不合格となり、医者への道は暗礁に乗り上げてしまう。そのことで、和田は翌年の 1 月 10 日に入学保証人を小幡篤次郎が引き受ける形で慶応義塾に入学する。入学 2 年目の 1883 年に、濱岡氏からの援助が途絶えると、ここでまた村上田長が一計を案じる。和田豊治を中津開運社の貢進生に推薦し、毎月 7 円の学資援助を得るというのである。

アメリカ留学を考えていた和田豊治は 1884 年に慶応義塾を卒業し、桑原虎治、武藤山治と一緒にアメリカに渡る。場所はサンフランシスコで、当時中津出身の甲斐織衛が営む甲斐商店があり、村上田長が紹介状を書いてくれたという。サンフランシスコに到着した 3 人は甲斐氏に面会した後に甲斐氏の友人で新聞記者のジャコブスという人物を紹介される。この人物の意見によって 3 人はタバコ製造所で働く事になる。桑原、武藤両氏はすぐに、スクールボーイや皿洗いに仕事をかえるが、和田はしばらく続け、和田は甲斐商店サンフランシスコ支店で働く事になる。

その後は支店長にもなり、30 歳になるまでの 6 年間でアメリカで過ごして帰国する。



甲斐商店展示場での和田豊治

出所：『和田豊治伝』（喜多貞吉、和田豊治伝編纂所、1925 年発行）



明治二十年三月サンフランシスコ甲斐商店の記念撮影(左から 2 番目、和田豊治)

出所：『和田豊治伝』（喜多貞吉、和田豊治伝編纂所、1925 年発行）

日本郵船から三井へ

帰国した和田は1891年に慶応同窓生の楠本氏の斡旋により日本郵船に入社する。神戸支店に配属された和田は外事係と称した外国荷物を扱うところで働いていた。この翌年、和田は結婚を考え村上田長に相談する。そのことで、川端楊坪の四女織衣と結婚することになる。

しかし、支店長との関係が悪化したことや中上川彦次郎に誘われたことをきっかけに和田は日本郵船を去る。そして、同年には三井銀行に入社し、横浜支店長次席となる。1893年には中上川が諸工業所を統括するために設置し、朝吹英二が主任を勤めていた三井工業部に転任し、鐘ヶ淵紡績会社本店支配人となって向島の工場に勤務することになる。紡織の知識の無かった和田は根本知識の習得のために職工と伍して研究に励む。そして、火災保険加入や防火設備を備えて火事対策をしたり、職工慰安改善に努めていく。

そんな時、鐘紡神戸支店長を務めていた武藤山治と性格による経営方針の意見対立や和田・武藤優劣論等で二人の間が悪化する。親交の厚かった日比翁助や濱口吉右衛門等が調停を試みたが失敗に終わった。これに頭を悩ませた中上川彦次郎と朝吹英二は三井呉服の要務として欧米へ紡織並びに綿花の事業調査に出す。しかし、和田が帰国してみると三井の方針が変更されてしまっていた。

富士紡績入社

帰国した和田は三井を辞職し、1901年に富士紡績株式会社専務取締役となり家族で静岡県の小山に移る。当時富士紡は倒産の危機にあり東海道線小山駅の「赤煉瓦の石塔」とか「赤煉瓦の事業失敗の記念碑」と揶揄されていたので、富士紡入りを反対する者は少なくなかった。当時中津紡績会社支配人(後に富士瓦斯紡績会社常務取締役となる)だった高橋茂澄は驚きと心配で小山まで訪ねに行っている。

小山に移った和田は工場などを調査し改善すべき点を調べていく。一番に驚いたのが社員の規律頓廃ぶりであった。社員の気は弛緩の極みで老廃の工場のような気が工場に充満していた。また、問題点を3つに絞った。1つ目は、動力として豊富な水力を利用していたにも関わらず生産費が高かったこと。2つ目は、機械の能力を発揮できなかったことによる効率の悪さ。3つ目に製品が他社よりも劣っていた事であった。そして、改善すべき点を定めると、職工や社員を直接指導して改善に乗り出していく。

中津近代人物情報室から <http://www.h4.dion.ne.jp/~yoshisan/index.html>



小山時代和田氏の住宅



小山工場備付和田氏常用の机及椅子



明治 38 年富士紡績整理の曙光を認めたる当時の記念撮影

前列中央 森村市左衛門 中段左から 2 番目 和田豊治 同右から 2 番目 湯山寿介

| 大正時代に和田豊治が関与した一部 | | |
|------------------|---------|--|
| 創立又は援助した会社 | 大正5年 | ボルネオ殖産会社(設立)、第一火災海上再保険会社(設立援助)、東京菓子会社(相談役) |
| | 大正6年 | 日本郵船(取締役)、ゴム工業会社(設立相談役)、東洋製鉄(創立取締役)、白木屋呉服店(援助)、朝鮮紡績(相談役)、中日実業(相談役)、玉川電気(相談役) |
| | 大正7年 | 日華紡績(設立社長)、満蒙毛織会社(設立相談役)、三越呉服店(援助)、星製薬(援助)、日本製塩(設立相談役)、日本電化工業(相談役)、大分セメント(設立相談役) |
| | 大正8年 | 第一生命(相談役)、白山水力(相談役) |
| | 大正9、10年 | 日本化学肥料、金華紡績、日本絹綿各会社(救済)、安部幸、伊藤忠、柿沼、茂木各商店(整理尽力)、相模紡績、東亜興業(援助) |
| | 大正11年 | 横浜生糸、内国通運、台南製糖(救済援助)、帝国商業銀行(整理奔走) |
| | 大正12年 | 多摩川水力電気(相談役)、山東鉱業(創立相談役)、満州紡績(創立援助) |
| 関与した公務及び公職 | 大正2年 | 大正2年 東京商業会議所特別議員 |
| | 大正3年 | 国産奨励会評議員 |
| | 大正4年 | 米価調節会委員 |
| | 大正5年 | 経済調査会委員 |
| | 大正7年 | 軍需評議員会評議員、救済事業調査会委員、臨時国民経済調査会委員 |
| | 大正8年 | 臨時財政経済調査会臨時委員 |
| | 大正9年 | 臨時産業調査会委員 |
| | 大正10年 | 米穀委員会委員、教育評議会委員、朝鮮総督府臨時産業調査会委員 |
| | 大正11年 | 貴族院議員(勅選) |
| 公益法人関係 | 大正12年 | 社会局参与、臨時法制審議会委員、帝都復興審議会委員 |
| | | 日本輸出絹糸織物同業組合連合会会長、日華実業協会副会長、南洋協会副会長 恩賜財団救済会理事、労資協調会理事、同行会理事、皇典研究所及 日本経済連盟会常務理事、農事電化会理事、理化学研究所理国学院理事 |
| 社交団体、学術機関 | | 東洋協会評議員、明治神宮奉賛会理事長、日本工業倶楽部専務理事、交詢社理事 東京高等工業学校商議員、東亜同交会監事、斯文会監事、講道館監事、慶応義塾評議員 日本女子大学評議員、実践女学校評議員、日露協会評議員、海事協会評議員 東京商工奨励館顧問 |

小山町民の豊治君崇拜敬

前に述べたる如く今日の小山町と言うは、其昔明治二十年頃迄は単に六合村と称する小村内の大字に過ぎずして全く狐業狸穴の觀ありしが、明治二十九年富士紡績会社が創立せられ始めて工場を小山に起したる時よりして、爾来年々工場の増設、貨物運搬の繁榮、職員職工の居住増加等に従ひて、漸次繁榮の地となり、鉄道停車場の拡張、郵便局の設置、二三銀行支店の設立等ありて、全く舊時の面目を一新し、明治四十二三年頃には戸数二千に近く、居住者は一萬五六千人を算するに至り、爰に村治関係者及び有志の間に菅沼、六合兩村を合併して町制を施かんとするの議を生じたりしが、氣運未だ熟せずして一時中止したり。然れども地方繁榮の勢いは停止する所なく、終に二三年を経過したる大正元年を以って小山町制を施くに至りたり。比菅沼六合兩村の急激なる發展は一に富士紡績会社の拡張發展の努力の負ふものなるを以って、小山地方の人々の豊治君を尊敬崇拜すること他人の想像する能はざる所にして、明治四十三年峰水力電気工事完成の時小山地方の人豊治君の徳を敬畏して、豊治君を神に祭りたしとの希望を工場長棚橋琢之助君に申出でたる程なりき。

「和田豊治傳」より

●大分県中津市北門通（きたもんどおり）和田公園内

大実業家 和田豊治

中津藩お鷹部屋和田薫六の長男、近くの家塾で漢学習字を学び、十五才の頃範医村上田長の書生となって独学し、後、田長の勧めで藩の奨学金を受けて上京、慶応義塾に入り、同郷の先輩中上川彦次郎、朝吹英二などの後を継いで米国に渡り、新知識や技術を学び特に紡績工業に注目し、感銘を受けて帰国した。



●和田豊治の碑

大会社の要識を経て、富士紡にいり、異常な熱意と努力によって、経営不振の会社を建て直し、紡績の町、静岡県小山町では大恩人として尊敬されている。（立て札より）

ヴィバ中津サイト <http://www5b.biglobe.ne.jp/~roo-1/index/index.htm>

遺徳碑の建設 「小山と豊治君」

豊治君六十餘年の生涯、其事跡は前章回を重ねて説く所の如し。

今彼の一生を通じて其盛業の由つて來りし處を考へ、其徳望の由つて起りし肇を討めるに、其基因たるや実に彼の発奮興起函根の山中に、富士紡会社の窮阨を救はんと決心したる時にあり。豊治君の傳記を読む者の悲壯を感じ、痛快を感じ、満足を感じ、後の偉大なる人物として面目を發揮するの因即ち是に在るかを知るは、正に彼が小山の住民をして専心会社と住民との契合を計り、自ら会社と住民との公僕を以て任じたる時に在り。

上野山重太夫君は当時の豊治君の態度を追懐して日く「後の和田君は豊名の興隆と共に日本帝國々民の公僕となり、私事を以て公事を辭せず、奔走よく天下の事に尽力せしも當時に於ては事苟くも社用と六合菅沼両村の公事にあらざれば、即ち敢へて他人に要談せず、他業に關輿せず、世の和田君を要望する看の爲めに門戸を閉鎖して入るを許さざりき。蓋し此の赤誠眞摯の情は一度天下の和田となるに及んで、公僕たるの精神愛に一挙にして天下に広充爛浸したる所以のものなり」と。

誠に豊治君と小山と富士紡とは、豊治君の全事業の核子をなすものなり。或は町制施行の援助に、或は、財本の寄附に、或は物品の贈與に、生涯を通じて春々の情を小山に送りて忘れず。小山町民もまた豊治君を敬すること慈父の如く、逢ひては之を悦び、一憂に當りては之を悲み、休戚を分ちて豊治君の爲めに愛憐せらるるを榮としたりき。町政張り、町民繁榮を來し、紀念の祝典を擧ぐるや、功を豊治君に歸して感謝状を贈るが如き情味の濃厚を來したることは、本傳之を詳逸したる所の如し。

大正十二年十一月豊治君重患の報小山町に至るや、町民愕然として驚き擧つて平癒を祈願す。十二月六日町代表として町會議員、小野一、山崎銀次郎、室伏辰次郎の三氏をせしめ、上京麻布の邸に詣り、親しく病床に伺候し見舞品を贈呈す。十三年三月四日豊治君病終に癒へず、其の訃小山に達するや、全町憂愁の氣に鎖され、人々骨肉の親を喪ふが如く、哀傷の極食を廢するものあるに至る。

四月六日小山町會は召集され、満場悲痛の裡に擧町哀悼の弔意を捧ぐるの決議をなし、告別式當日は町長室伏完君上京して弔辭を述べ、町會議員及び区長全員擧りて之に参列し町内各戸何れも弔旗を掲げ、演芸場、興行物、飲食店、料理店等は、皆歌舞音曲を停めて弔意を表し、小山工場の主催にて舉行せらるる告別式當日の遥拝式には、町役場吏員全部及び町民一同参拝をなし、三月十五日遺骨の駿河駅を通過するや、町會議員各区長其他一般町民何れも業を休みて汽車沼道に堵列して之を送り、三月十八日本葬の中津町に行はるるや、町會議員小野一、山崎銀次郎の二氏町長代理及び町代表として之に参列し、以て盡くるなき断腸哀痛の意を表したり。實に小山町と豊治君とは、人物と事業と、場所との縁故を永遠に結合して豊治君の美名と共に萬代榮譽を荷うものと云ふべきなり。

「和田豊治傳」より

和田君遺德碑

和田君遺德碑

桂五十郎撰

喜多貞吉書

正三位勲一等子爵滋澤榮一篆額

和田君豐治來居駿之小山辨紡績工廠事也承積衰困
 頽之後廢艱難締造之會空勿經營暴突不黔減少耗費
 多積公儲未暮年其業旺矣小山在函根山中舊為二邨
 曰六合曰菅沼最爾陋邑境壤犬牙民之休戚往往不齊
 而廠事與邨事最多抵牾屢滋事端君深憂之於是務乎
 其民興利除害矜其躬領式行範居十餘年隣保和緝知
 廠之所以利於邨敦睦之風藹然而成迺集邨之長老告
 之併二村為一町出廠資一百本股附之俾司其貸收蓄
 其贏餘民大說大正元年邨老相率詣官有請允遂立町
 制初二村之民戶四百六十二今則戶三千三百餘口二
 百四十九口一萬三千四百八十八今則戶三千三百餘口二
 萬一千三百七十七前之本股一百殖至二百餘支二百數贏
 一萬五千八百有餘圓圭窳化為輪奐隘巷變為廣衢町
 運之隆如日在異位町民僉曰惟君之功蓋町運之隆廠
 運之隆也廠運之隆君之功也先是君去小山歸住東京
 并州之感不能自己為町致力終始不渝町民益深惠之
 君亦樂之既而君歿町民慟哭哀痛僉曰喪父母矣戶揭
 旌人廢樂屋號而臯復之越二歲以為未盡胥議曰町之
 所以有今日職君惠澤之由不文其事於碑以貽後昆非
 人之情也來屬紀實夫職民宰者宜任民安恬而有損民
 利己者民每受累若君不居宰則固無責而小山之民每
 依庇蔭生而親之歿而慕之不啻攀轅塞路從非仁人焉
 能如此因紀其實系以銘銘曰
 君何惠乎勒石以文石可泐也文可泐也君之惠乎不可
 泐也永在人臆孔塞孔淵湛乎斯土千歲若新
 大正十四年十二月 静岡縣駿東郡小山町民建之



和田豐治遺德碑（朝倉文夫 作）

豊門会館について

豊門会館の設立

ここで、和田社長にゆかりの深い豊門全館について記しておきたい。

財団法人豊門会館は、地域住民並びに従業員の教育、保健、慰安などの場を提供する目的をもって設立された。基本財産については、和田豊治、森村開作、日比谷新次郎、浜口吉右衛門(二代一、川崎栄助一二代一、藤井諸照、伊東要蔵、湯山寿介、持田巽、宮本清三郎、鹿村美久、林田操、朝倉每人、緒方正亮、長野善五郎の計十五人からの寄付になる当社株二千株と金十万円が充てられ、大正十二年五月に設立申請を行い、内務大臣の許可を得て翌十三年八月に登記された。大正十三年三月に死去した和田社長の遺志によって、同家の向島の邸宅延べ百二十六坪が遺族より寄贈さ九、直ちに小山町藤曲における庭園の築造と邸宅の移転工事に着手し、大正十四年十二月に落成、翌年五月十六日には盛大な開館式が挙行された。これを豊門全館と名づけたのは、当社の四大恩人の功績を永遠に記憶せんがためである。すなわち、和田豊治の「豊」と、富士紡の三門と称せられた森村市左衛門、日比谷平左衛門、浜口吉右衛門の三翁の「門」をとったもので、大正十年十一月に死去した川崎栄助翁の発議による。

かくして、小山の小高い丘の上に建てられた豊門会館は、正面に富士の霊峰を仰ぎ、周囲には近く迫る山々を築山のごとく廻らし、いながらにしてその一大景観を望むことができる。会館の建物はその後の増築によって総建坪三百余坪に及び、山間とは思えぬ完備された設備と五千三百余坪の庭園に囲まれ、付属施設として設けられた五千四百余の運動場並びに公園とともに、社の内外を問わずに多目的施設として大いに利用されている。

(富士紡績100年史)

昭和7年8月 富士紡小山工場の概況及び小山町との関係（抜粋）

財団法人豊門会館概要

一 其沿革ノ大要

明治貳拾九年三月、静岡県ノ北端小山ノ地ニ富士山麓ノ水カヲ利用シ紡績会社ヲ興シ、足柄山中ノ一寒村(当時、元六合村戸数二百五十九戸、人口一、六二四人、元菅沼村戸数一三五戸、人口八〇二人)ハ、拾年ヲ出デヅシテ人口貳万ニ垂ントスル薇然タルエ業都市ト為リ、急速ナル風氣ノ開發ハ各種ノ弊風敗俗ヲ醸生スルノ虞ナキニアラザルヲ以テ、其ノ事アルヲ見ザルニ先チ、時ノ富士瓦斯紡績株式会社専務取締役タリシ故和田豊治氏、其他ノ先覚者ハ、地方人士ノ為メ教育・娯樂・保健・修養ノ機関タラシメント欲シ、財団法人ヲ組織シ一館屋ヲ作り公衆ニ開放シタルモノニシテ、此ノ会館タルヤ小山ノ發達ト

共ニ離ルベカラザル故和田豊治君、及同君ヲ賛ケタル故森村市左衛門・故浜口吉右衛門・故日比谷平左衛門三君ノ名ニ因ミ、其ノ遺志ヲ重ンジ其ノ徳ニ酬インガ為メ、其ノ人ノ名ヲ莊園ニ付シ豊門会館ト命ズ、他年風俗醇化、人文開進ノ氣運此ノ会館ヨリ興起スルコトヲ希フ所以ノモノナリ

一 設立許可年月日

大正十三年七月三十一日、静二部第四〇号ヲ以テ内務大臣ノ許可ヲ得

一 用地沿革ノ大要

会館設置ノ用地ハ、町ノ中央ニ位シ富士山ニ面シ、自然ノ眺望ニ富ミ、風俗ノ醇化、人文ノ開進ニハ好適ナルヲ以テ、特ニ此ノ地ヲ選ミタルモノニシテ設置ノ議起ルヤ、地方人士ハ進ンデ之レガ創設ノ事業ヲ翼ケタルモ亦故アリト謂フベシ

一 総坪数

壹万六百九十九坪

一 会館

貳百九十二坪

一 創設費

金八万四千二十三円九十銭

一 庭園其他改良費

金貳万九千七百四十一円四十六銭

一 壹ケ年ノ利用人員

約貳万人

一 基本財産

有価証券 114, 190円

銀行預金 90, 036円61

一 壹ヶ年ノ維持費
約金五千円也

一 小山町ト富士紡小山工場トノ關係

(三) 小山町及び町民ヘノ寄付關係

(1) 小山町々制施行ニ際シ、故和田豊治氏ヨリ自己持株100株(5,000円)
ヲ

小山町ヘ寄付ス、利ヲ生ジ今ヤ33,000円ノ巨額ニ昇レリ

(2) 豊門會館豊門公園ノ設立

財団法人ヲ以テ設立シ、教育・娯樂・保健・修養・會合ノ機關トシ町民一般ヘ
モ公開ス

創設費(庭園費ヲモ含ム)約十一万四千円ヲ要セリ

維持費(一ヶ年)約五千円ヲ要ス

(3) 富士見公園ノ設立

大正十四年当工場敷地約一千五百坪ヲ割キ公園ニ改造、内ニプールヲ設ケ

小山町史 近代資料編から

「静岡民友新聞」大正14年11月9日 記事

大正14年11月 富士紡が小山町に和田公園建設

小山町の中央へ模範公園建設 三万坪工費十五万円で

富士紡績会社では、工費十五万円余を投じ小山町の中央部熊野神社付近に県下模範の公園を建設すべく彰城、大西の両技師に依って設計中の処 三万坪の土地買収を完了し工事に着手したが同町でも前社長和田豊治氏の彰徳碑を建立すべく一万余円の予算を以て一切を彫刻界の権威者朝倉文夫氏に一任したので数日来出張して実地踏査となし名称を和田公園となし中央部噴水泉の畔に建碑する事になつたと

名称 財団法人 豊門会館 (ほうもんかいかん)

事務所 主たる事務所 〒410-1304 小山町藤曲 178 番地

電話番号 0550-76-1414(03-3665-7606)

従たる事務所

代表者 理事長 廣瀬貞雄

目的 この法人は、公衆会同の便益とその保健修養教化慰安を計ることを目的とする。

- 事業
- 1 会館、宿舎及び庭園の設備
 - 2 講演会、講習会の開催
 - 3 慰安修養に関する演芸会の開催
 - 4 運動競技保健衛生に関する施設
 - 5 その他目的達成に必要な事業

設立許可年月日 大正 13 年 7 月 31 日許可

許可番号 静 2 部第 40 号

設立の登記 ** 年 月 日登記

理事 数 若干名 (任期 3 年)

監事 数 若干名 (任期 3 年)

社員 数 - 人

名称 財 和田薫幸会

所在地 150-0047 東京都渋谷区神山 15-1

電話 03-3460-8038

代表者 会長 和田修一

設立 大 13.11.19

目的 教育慈善救恤その他之に類する公益事業を行い又は是等の事業を援助すること

事業 ・学術研究の助成・学術業績に関する刊行物発行の助成